

(別紙様式)

# 令和8年度学校自己評価システムシート (県立鶴ヶ島)

目指す学校像	地域に貢献できる人材の育成
--------	---------------

重点目標	1 「自ら考える力」「他者と協働する力」の育成 2 「健全な職業観・勤労観」の育成 3 地域との連携・協働による「地域参画力」の育成
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト				
年 度 目 標				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	<b>■現状</b> ・教員相互の授業公開週間の設定や生徒の学力向上に資する教員研修の実施などの取組が展開されている。 ・指導者用端末を活用した授業実践や「個別最適な学び」「協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めている。 <b>■課題</b> ・ICTを活用し、「個別最適な学び」による生徒の学力向上と教員の教科指導力向上を図る必要がある。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実践で自己効力感ややり抜く力などの非認知能力を更に向上させる必要がある。 ・社会の変化に対応し、自ら課題を発見し解決する力や、多様な価値観を持つ人々と「協働的な学び」により新たな価値を想像する力を育む必要がある。	教科指導力の向上を目指した効果的なICTの活用	①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、各教科等の特質に応じたICTを活用した新たな教材や学習活動等を学習指導に取り入れる。 ②「主体的・対話的で深い学び」の視点を持った授業改善や教科等横断的な学習を進めるとともにチームで問題を解決し、学校外での発表を行い、取り組みを広くアピールする。 ③データサイエンスの基礎的な手法を用いた教科等横断的な学習や探究活動を行う。 ④学校におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)による校務効率化を活かし、教科指導力向上を図る取り組みを総合的かつ計画的に行う。	①指導者用端末の利用実績が前年度を上回り、学習指導にICTを活用した新たな教材や学習活動等が取り入れられたか。また、日本語の支援が必要な生徒に対しての支援ができたか。 ②③教科等横断的な視点での学習活動とデータサイエンスの手法を用いた探究活動が実施し、学校外での発表ができたか。 ①②③④「学校評価アンケート」の授業理解度及び学習指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ④1人1台端末環境下でのICTの効果的な活用により授業改善や校務効率化が進んだか。
2	<b>■現状</b> ・体系的・系統的な本校独自の「キャリア教育プログラム」を実施し、コミュニケーション能力や社会性の育成を含めたキャリア教育を展開している。 ・学校生活のルール、マナーやモラルを理解し、遵守する指導を行うとともに、授業や学校行事等において生徒が主体的に活躍する場の創出を進めている。 <b>■課題</b> ・インターンシップの取組でより社会人・職業人として必要な資質を実感し、日々の学校生活に主体的に取り組む必要がある。 ・一人一人の状況を丁寧に把握し、個々に応じた教育を推進する必要がある。 ・思いやりの心と規範意識の育成に向け、規律ある態度を持った行動が取れるようにする必要がある。	共感的人間関係を育成する生徒指導と社会とのつながりを理解するキャリア教育	①「鶴ヶ島清風アカデミア」での探究活動を中心に、家庭や地域・企業等と連携した職場体験やインターンシップを活かし、実効性のあるキャリアガイダンスを推進する。 ②組織的な生徒指導を展開するとともに、多様な人材と協働する力の育成を最大限に行う場と方法の実現に向けた学校行事、探究的な学習や体験学習を実施する。 ③他者への謝意を示せる人になるために、思いやりの心と規範意識を培う指導を全教職員の共通理解のもと実践する。 ④教育相談活動や特別な教育的支援などの教育的ニーズの多様化に対応するための教職員の専門性の更なる向上と校内体制を整備する。	①②「鶴ヶ島清風アカデミア」での探究活動や体験学習をベースに置く本校独自の「キャリア教育プログラム」が実施できたか。 ①②「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ①②③④3年次生徒の第1志望進路の実現が9割程度になったか。 ②③「学校評価アンケート」の生徒の目標設定に関する調査項目や学校生活に関する調査項目の肯定回答割合が9割以上になったか。 ③④外部関係機関、SCやSSWとの連携や面談等によって生徒の個別状況を早期に、かつ的確に把握し、教育的ニーズの多様化に対応できたか。
3	<b>■現状</b> ・県立高校の再編整備による開校以来、鶴ヶ島市内唯一の高校として地域から信頼される学校づくりを進めている。 ・学校・家庭・地域が相互に理解を深めて連携・協働しながら地域に根差した教育活動の多様化・活性化を図るとともに、学校内外の教育環境の改善や充実を進めている。 <b>■課題</b> ・地域資源を活かした教育活動や地域貢献活動等を更に推進する必要がある。 ・県内公立中学校卒業生数及び公立全日制高校希望者の減少傾向を踏まえ、学校広報活動の取組を模索する必要がある。	学校・家庭・地域の更なる連携と本校及び鶴ヶ島市の発展に寄与する取組	①学校運営協議会の設置を踏まえ、学校・地域の双方が「WIN-WIN」となるような取組と併せて中学生や地域住民をはじめとする県民の本校及び鶴ヶ島市の魅力の認知度を高める取組を実践する。 ②学校の働き方改革を推進するために学校・家庭・地域のそれぞれが適切な役割分担を果たし、教育に関するバランスを考慮しながら相互に連携した教育活動を展開する。 ③家庭を取り巻く環境の変化に対応できるように教職員の資質・能力を向上させるとともに、PTA、関係機関や企業等と連携した家庭教育支援体制を構築する。	①学校Webサイトの閲覧数が平均4,500件/日を超えるとともに、「学校評価アンケート」の学校広報(学校Webサイト・Classi・メール配信)に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ①②③「学校運営協議会」やPTA活動等、学校・家庭・地域が繋がる仕組みが円滑に機能し、PTA、関係機関や企業等と連携した授業や学校行事等における取組の実施件数が前年度を上回ったか。